

IDATEN Winter Seminar 2012

SHIKATEN



Vision: 能動的に学ぶ3日間を体験してもらう
 Mission:

- ・各講義のなかでグループディスカッションを行い、活発な議論をしてもらう
- ・2日目昼は、感染症カードバトル・ウォークラリー
- ・2日目夜は、インストラクターと受講生の双方向性のディスカッションを生み出すケースカンファレンス



タイトル		時間割	講師
1日目: 2月17日 (金) at 奈良県文化会館 集会室A+B			
0	Ice breaking	13:00~13:30	SHIKATEN staff
1	入院患者の発熱アプローチ	13:30~14:30	笠原 敬 先生
2	人工呼吸器管理患者の発熱のアプローチ	14:40~15:25	北菌 英隆 先生
3	入院患者の下痢へのアプローチ	15:35~16:20	岩淵千太郎先生
4	尿カテーテル留置患者の発熱アプローチ	16:30~17:15	山本 勇氣 先生
5	外科術後患者の発熱アプローチ	17:15~18:10	大野 博司 先生
6	中心静脈カテーテル留置患者の発熱アプローチ	18:20~19:05	斎藤 昭彦 先生
レセプション at 北京料理 奈良百楽 (Produced by SHIKATEN members)			
2日目: 2月18日 (土) at 市立奈良病院			
7	血管内デバイス患者の発熱アプローチ	8:00~8:45	大路 剛 先生
8	人工関節置換術後患者の発熱アプローチ	8:55~9:40	中村 造 先生
9	糖尿病患者の発熱アプローチ	9:50~10:35	松永 直久 先生
10	肝硬変患者の発熱アプローチ	10:45~11:30	上蓑 義典 先生
11	腎不全・透析患者の発熱アプローチ	11:40~12:25	岸田 直樹 先生
C.	自由参加型ケースカンファレンス 【感染症医はどう考えるか】	19:00~	能勢 裕久 先生 SHIKATEN staff
3日目: 2月19日 (日) at 奈良県文化会館 集会室A+B			
12	免疫不全患者での発熱アプローチ	9:00~9:45	上山 伸也 先生
13	固形腫瘍患者の発熱アプローチ	9:55~10:40	細川 直登 先生
14	好中球減少時の発熱アプローチ	10:50~11:35	山本 舜悟 先生
15	ステロイド投与患者の発熱アプローチ	11:45~12:30	忽那 賢志 先生
16	エンドロール		SHIKATEN staff

1日目
@奈良文化会館

Ice breaking
せんとくん
feat. SHIKATEN staff

IDATEN Winter Seminar 2012 「SHIKATEN」スタート！
グループ内での親交を深め、活発な議論をしてもらえよう
自己紹介タイムの後にチーム名を決めてもらいました。
ルールは「感染症+奈良」
個性的なチーム名をせんとくんが聞いて回ります。



まんとフィリア



奈良neutropeniers



ツツガムシ古墳



NIB8



多岐西村生せんとくん



奈良マイシン



菌鉄



奈良ペン



鹿糞線虫



シュードナラス

入院患者の
発熱アプローチ
笠原 敬 先生

人工呼吸器管理患者の
発熱のアプローチ
北蘭 英隆 先生

入院患者の下痢への
アプローチ
岩淵千太郎先生

ばーん
どんがらがっしゃーん
ぐおー

謎の効果音と共に
講義1発目、笠原先生スタート!



だんごを餌にディスカッションを促進させる、なんとも斬新な講義スタイルに、緊張がみだった会場が暖まりました。ちなみにあのだんご、ホントにおいしいです
予想されるな症状を裏切るくせに重症化しがちな入院患者の発熱に対して、「バイタルサインにこだわる」「人となりを知る (by 大野博司先生)」「3点セット」を大切に、3日間ディスカッションを楽しみ、日常の診療に役立てましょう!

診断は簡単なようで難しいVAPに対し、できるだけ速やかに治療開始し、治療開始時は入院期間と喀痰グラム染色をもとに起因菌の予想をしながら出来る限りスペクトラムを外さないよう注意し、適切な量を使うことが大切ということでした。

MRSA肺炎の可能性が少しある場合、治療するリスクと治療しないリスクを天秤にかけるとき、VAPでは「治療しないリスク=死/合併症」となることが多いため、治療閾値を下げがちですが、治療する場合も2,3日後に再評価する必要があります。



あなたです！入院時に問題となる下痢について、特に怖いC. difficile感染症を中心に講義して頂きました。



Preziを用いた、独特のプレゼンが(個人的に)とても素敵でした！入院中の伝播に関わるのは、医療者の行動です。CDIは死ぬ病気！CDIの兆候を見逃さず、また、感染拡大防止のために医療者1人1人が自分の行動に気をつけましょう。



● 尿管カテーテル留置患者の発熱アプローチ
山本勇氣先生

一見簡単な感染症のようでありながら、実は他の部位の感染症を除外して診療する、総合内科的疾患であるとされる尿路感染症について、診断と治療、予防を中心にお話しいただきました。

実際CA-UTIと診断された場合のアンチバイオグラムを考慮した抗菌薬の選び方をディスカッションを通して学びました。

不必要なカテーテルでないかを常に考える等、適切なカテーテル管理のためのシステム、教育を徹底することが必要です。



● 外科術後患者の発熱アプローチ
大野博司先生

術後の発熱について、常にバイタルサインと時間経過を意識しながら診療する必要があると学びました。

術後発熱とCRP上昇→なんとなく抗菌薬投与→効かないっほいから広域にしてみよう！
こんな風景、しばしば見られますね。

感染症を疑うならFever workup3点セット！

日々是血培—Every Day Blood Culture!

迷ったら常に血培—Always Blood Culture!

また、非感染症に強くなるのが実は術後の発熱を制する大きな一歩につながるようです。

外科主治医の意向を尊重する人間的な深さにまで言及した、医師として、人間として、必死になればなるほど忘れてしまいがちな大切なコトを教えてくれる講義でした。



● 中心静脈カテーテル留置患者の発熱アプローチ
斎藤昭彦先生

中心静脈カテーテル感染について、小児科かつ、ジェネラルにも精通される斎藤先生にお話し頂きました。

診断、抗菌薬の選択から、血液培養の解釈まで、幅広いテーマのエッセンスが凝縮されました。

斎藤先生の優しいながらも説得力のある講義が印象的でした。



レセプション
@奈良百景

☆クイズ大会☆

レセプションの目玉のクイズ大会！

・GPCといえは？
・無人島に1杯持って行くとしたら？
等々、いろいろな問題に対して各班でディスカッションして答え、他の班と解答が被れば被るほど得点が増えていくゲームです。
講師の先生方、受講生の先生方から思いがけない深い話をいただきましたよ

講義の後はレセプション！
講師の先生方と同じテーブルで食事をしながら交流を深めます。



1位の景品は
SHIKATEN
オリジナルタンブラー！

レセプション担当
学生スタッフ



糖尿病患者の
発熱アプローチ
松永 直久先生

DMはSilentで感染症を隠す場合があることも知られ、奥まで所見を探しに行くことが大事。気腫性胆管炎や気腫性膀胱炎、鼻脳ムコール症などのマニアックな疾患も含まれるが、CommonなのはDiabetic foot infection! 常に全身状態とバイタルから今の状態を把握しつつ、「エグい病変だ

なあ」ではなく、患者(感染徴候、脱水所見、心理社会的背景)・足趾病変(変形や血管、神経所見)・創傷(大きさや深さ、徴候)など評価するための言葉をもとう。

抗菌薬終了などの判断もこれらのFactorをいかに評価できるかから始まるので、とにかく足を見に行きましょう!



人工関節置換術後患者の
発熱アプローチ
中村 造先生

網羅的ではなく、1つでも印象に残すようにとの前置きで、感染症領域では「もしかしてかなりマイナーな」化膿性関節炎へのアプローチ開始! 感染症診療に上達するコツは【抗菌薬はみなさんかなり勉強できているので】いかに菌を想定できるか。そこを押さえておけば、次のステップへの感覚が見えてくる。症状では可動域制限が意外にGood、関節液の培養は45~100%・・・どっちなんだ!?と思うけど、感覚的にはかなり(・▽・)イ!!など、なるべく経験的な感覚を盛り込む姿勢が印象に残りました。

講義中に示された、歩けなくなっているポメラニアンの写真-これを見たら(ポメラニアンなどのペットにもよく使われている)メトロニダゾールの副作用である末梢神経炎を思い出す今日このごろであります。



2日目
@市立奈良病院



2日目の会場はなんと畳張り!
狭い会場で座布団に座りながらのディスカッションはなんだかアットホームで話も弾みます。
奇遇なことに初回IDATENセミナーもこんな感じだったみたいです!

血管内デバイス患者の
発熱アプローチ
大路 剛先生

今回のSHIKATENで貴重な意見を何度も頂いた大路先生による講義でした♪
様々な理由で簡単には抜けない、命に直結する血管内デバイス。抜取困難なペースメーカー感染のコンサルトなど、難しい議論が行われました!

一人寂しい夜には

・Mandell読みます!!



肝硬変患者の
発熱アプローチ
上蓑 義典先生

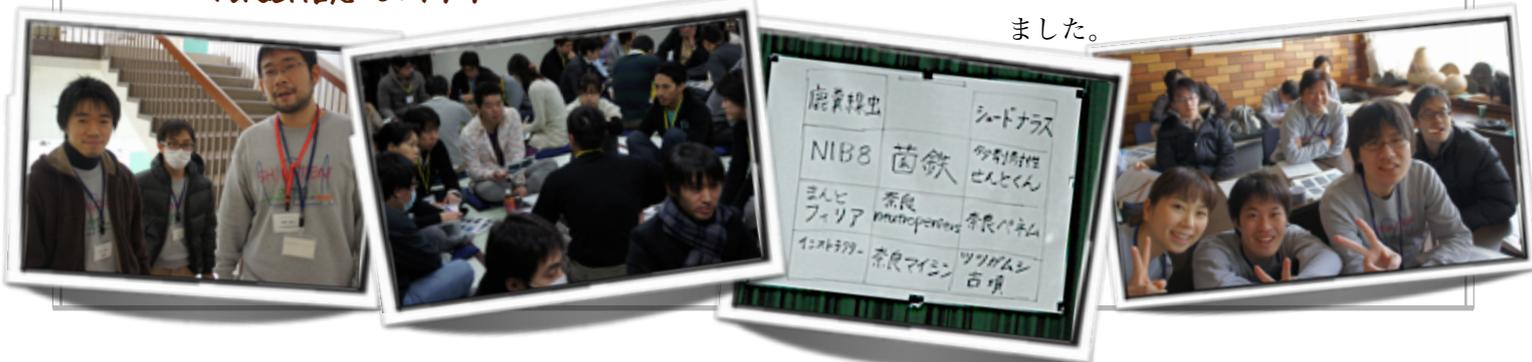
感染症を合併することが多い肝硬変患者の発熱について、具体的な症例をベースに、爽やかな上蓑先生に講義していただきました♡
それぞれが感染症科医の視点に立つてのディスカッションが盛り上がりました。

特にSBPを疑ったときに必要な検査・治療・予防について、病態からわかりやすくお話していただきました。



腎不全・透析患者の
発熱アプローチ
岸田 直樹先生

透析患者で発熱が起こった場合、実際に臨床ではどう対処するのか、透析導入後の結核やシャント感染など様々な症例を挙げて、岸田先生に熱くレクチャーしていただきました。
“免疫不全”と漠然と恐れるのではなく、透析患者は本当に免疫不全なのかを考える事が大事で、病態を丁寧にひも解く必要があることを学びました。



ウォークラリー

ウォークラリーの目玉は忍那先生考案の細菌カードバトル!!
商品化も考えてるとウワサのゲームをSHIKATENで先行大公開しちゃいます。
というカードバトルのためのウォークラリーといっても過言でない...

各チェックポイント(観光スポット)の担当者から症例が提示され、その細菌を倒せる抗菌薬カードを出します。
見事細菌を倒せる抗菌薬カードを出すことができれば、細菌カードゲット!!
1位の菌鉄チームは8箇所のチェックポイント中7箇所を周り、7枚の細菌カードをゲットしたとのことですよ。凄いです!!



個人的にいちばん好きなクレグシエラカード

優勝：菌鉄チーム



グラム染色カード!!! どうだっ!!!

ナイトセッション 「感染症医はどう考えるか」 能勢 裕久 先生 feat. SHIKATEN staff

能勢先生と奈良医大感染症センターのコラボ企画

- ・潜伏期から考える Travel medicine
- ・デング熱——(V)——!!・・・>本当に?
- ・マラリアが再発した (!?) らどうしよう

の3本立てでお送りしました!

潜伏期の考え方や、熱帯医学での Clinical reasoning、問診はとっても大事だけど、妻同伴で Sexual activity を聞いちゃダメ! 等 輸入感染症診療に欠かせない Tips 満載の超濃密なセッションとなりました。



お酒の力も手伝い情熱的なディスカッションも交わされ、皆さん素敵な夜を過ごすことができたのではないのでしょうか。

SHIKATEN! 目に登場したせんとかくんが再登場!!

天理スタッフといっしょに素敵なダンスを披露してくれました♪

せんとかくんのひとときキラのあるダンスに注目!!

せんとかくん
ダンサーズ♥



免疫不全患者での
発熱アプローチ
上山 伸也先生

上山先生のあの柔らかいやさしい語り口で、レクチャーは始まりました。免疫不全患者の発熱への対処で覚えることは少なく、知っておくべきことは次の二つに尽きる、とうれしのお言葉・・・

- ・免疫不全を(できる限り)明確に分類する
- ・各免疫不全において頻度の高い感染臓器、起茵菌のパターンを理解する

免疫不全は各論的に考えて、臓器診断・原因微生物にこだわるのが大切だと学ぶことができた講義でした。



固形腫瘍患者の
発熱アプローチ
細川 直登先生

とつても貫禄のある細川先生のレクチャー。講義の仕方もクリアーカットで思わず唖ってしまいます。

固形腫瘍について、解剖学的な位置によって臨床的な問題が変わってきたりすること、放射線治療の問題、手術やカテーテルに伴う感染症リスクといった固形腫瘍患者の発熱に対する重要な切り口をディスカッションを通して教えていただきました。



好中球減少時の
発熱アプローチ
山本 舜悟先生

内科的なエマージェンシーである 発熱性好中球減少症(FN)について、ジョジョの



専門家、山本舜悟先生に講義して頂きました。治療の甲斐なく死に至った症例2例がどーんと提示され、FNは速くて怖いというイメージを植え付けられた後で、「典型的に非典型的な像」なFNの治療を学びました。



ちょっとした症状を軽視しない、原則はいつも原則!!

ディスカッションさせてくれない作業妨害BGMを挿みつつ要点をしっかり押さえた、膨大な配布資料が心強い講義でした。



ステロイド投与患者の
発熱アプローチ
忽那 賢志先生

フォーカスが複数ある、それぞれのフォーカスからあまり聞いたことがない菌が複数種生えるなど、「よくわからない」状況が起こり得るステロイド投与患者の発熱に対するアプローチについて、少年漫画の一コマを織り交ぜながらわかりやすくまとめられた講義をしていただきました。



ステロイド投与患者が全て同等に感染のリスクがあるわけではなく、ステロイドの投与量や投与期間、基礎疾患によりリスクが変化します。ステロイド投与中に問題となりやすい感染症を考慮した上で診断、治療、予防をしましょう!



キリトリ



IDATENセミナー
講師陣からの
メッセージ入り
SHIKATENトレーナーの
お疲れ様でした!!